

1 学校教育目標

人権尊重の精神に基づき、地域社会や国際社会に対応できる知・徳・体のバランスがとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。

- 豊かな子 : 自らを律し、仲良くみんなで力を合わせて、互いに思いやれる心豊かな子
- 考える子 : 自ら学び、考え、判断して問題を解決し、創造的に表現し、最後までやり通す子
- たくましい子 : 心身ともに健康で、互いの生命と人格を尊重し、きまり正しく生活する子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎笑顔輝く学校 子どもに夢を応援する学校 知・徳・体の調和のとれた児童を育てる学校 ・教師が教材研究や授業改善に努め、児童にとって学習が分かる楽しい学校 ・教育環境整備に努め、保護者や地域から信頼される学校 ・母校に誇りをもつ児童を育てる学校 ・教職員が協働し、充実感と誇りのもてる学校
○児童・生徒像	◎「明るく元気で素直な子」を育成の基盤とし、 ・豊かな子 : 自らを律し、仲良くみんなで力を合わせて、互いに思いやれる心豊かな子 ・考える子 : 自ら学び、考え、判断して問題を解決し、創造的に表現し、最後までやり通す子 ・たくましい子 : 心身ともに健康で、互いの生命と人格を尊重し、きまり正しく生活する子
○教師像	◎児童に夢を与えられ、児童の心を引き付ける人間性豊かな教師 ・1時間(45分)の授業を創意工夫し、児童の学習意欲を高める授業ができる教師 ・児童理解に努め、一人一人を大切に温かな学級経営ができる教師 ・謙虚で誠実であり、協働意識と危機管理意識の高い教師 ・保護者や地域の思いや願いを受け止め、学校教育に生かす努力を惜しまない教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 全校児童は307名。新1年57名が入学。12学級。特別支援教室に34名の児童が入室している。教職経験10年未満の教職員73.4%(内6年未満42.1%)を占めている。常に共通理解のもと同歩調で統一した指導に努めている。また、足立スタンダード(問題解決型学習)を基にした授業力の向上を目指し、学力の向上に努める。
- 児童は、明るく元気で素直である。学習面では、授業規律の徹底が図られ、前向きに学習に取り組む児童が増えた。生活面では、縦割り班清掃や活動さらに委員会活動で、協調性や勤労精神が育ち、学年の枠を超えて仲よく交流できる児童が多い。しかし、学習の習得状況では二極化の傾向があり、その是正に努めている。
- 保護者、地域の方々は、学校の教育活動全般に対し大変協力的である。そのため、学校が地域の文化や活動の中心になりつつある。また本校出身者の家庭が多く、学校や地域に対する愛着が深い。地域で子どもを育てるという意識が強く、子どもを大切にされた地域行事が盛んである。

【前年度の成果】

コロナ禍、学校教育がピンチの時、本校教職員は、教育方針『子どもたちの学力向上と心と体の健全育成』に取り組み、子どもたちはしっかり成果を出した。

- ① 区の学力調査では、通過率95%以上を達成した。今回の学力調査は正式な調査ではなく、参考として行われた。しかし、本校では、多くの子どもたちに合格点をとらせたいと考えた。それを可能にしたのは、参考実施なので実施日を学校で決めることができたからである。本校は7月22日にし、6月から分散登校を始め、1か月間以上復習に取り組んだ。3月から学校閉鎖になった関係で前年度の学習内容の理解が不十分なまま進級させたくないという教職員一丸となって取り組んだ。専科の先生、特別支援教室の先生も協力して、理解の不十分な子どもを優先的に放課後教えた。子どもたちも真剣に取り組んだ。その結果、今までにない好成績を上げることができた。さらに副産物として、先生と子どもたちの関係がよくなった。次回は復習に使える時間が短いので、今回のようにできないが、熱心な教員と素直で頑張る子どもとの関係は変わらず、保木間小を発展させることと信じている。
- ② 体育学習発表会と音楽学習発表会では、学年の特徴を生かした取り組みができ子どもたちが輝いていた。短い時間だったが、熱心に取り組んだ子どもたちを大いに褒めたい。先生方はこの厳しい時子どもたちはよくやったという感動で胸がいっぱいだった。子どもが主役の学校行事で、一人一人の子どもたちが活躍していた。
- ③ 日光自然教室で思い出を作ることができなかった6年生には、11月に学校で夜の学校探検を実施した。先生方が協力して、6年生を楽しませることができた。卒業アルバムに写真を載せられるよう写真屋さんの協力も得て、よい思い出作りができた。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

「学力向上と心と体の健全育成」と捉えている。課題解決の方向性は今年度同様に、「放課後学習、縦割り班活動(清掃・遊び)、教員研修」の取組を行いたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	規律ある行動と健康な体づくり				○	○
3	豊かな心をはぐくむ				○	○
4	幼・保・小・中の連携の充実	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン		
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
基礎的基本的な学力の定着 学習習慣の定着	○区学力調査目標 通過率 85%以上 ○年度末到達目標 通過率 90%以上	○区学力調査目標 通過率 92.7% ○年度末到達目標 通過率 80.4%	・4月実施結果 92.7%で目標達成した。児童の実態に応じた新たな目標を設定し、指導改善と個に応じた指導を充実・推進し、学力向上を推進する。 ・3月実施結果 80.4%で目標を達成できなかった。課題を分析し、指導改善と個に応じた指導の充実を図る。	○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程 度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	朝学習 (保木間 タイム)	全児童 国語 算数	毎週火 (国語) 毎週金 (算数) 始業前 10分	【指導者体制】 ・担任+専科担当 【取組みのねらい・目的】 ・学習内容の復習・確認 【使用教材】 ・漢字、計算等のプリント学習	2か月に1回教 科を指定し、ミ ニテストを実施	毎回のミニテスト で全員が正答率 80%以上の結果 を出す。	平均正答率 ・国語 81.3% ・算数 87.0%	・平均正答率は、国語、 算数ともに80%を達成 することができた。今後 正答率80%に届かない 児童に対しての指導 を工夫していく。	○
継続	放課後 学習教室	全学年 国語・算数 単元テストで 正答率 70%未満 の児童	毎週火・ 木・金 放課後 40分 (教科は 隔週交 代)	【指導者体制】 ・担任+専科担当 【取組みのねらい・目的】 ・つまずきをさかのぼり、個別 指導もしくは少人数指導 【使用教材】 ・次へのステップ、ペーシットリル等	定着度確認 テスト (1月実施)	1月までに実施す る定着度確認テ ストで目標値を通 過する対象児童 90%	・定着度確認テスト 通過率93.9%	・定着度確認テスト通過 率93.9%で目標を達 成することができた。	◎
改善	サマー スクール	全学年 算数 各学年 約10名 程度	全学年 算数 各学年 約10名 程度。	【指導者体制】 ・管理職1名+担任+専科担当 【取組みのねらい・目的】 ・前学年までのつまずきや現学 年の授業内容で理解が十分 でない内容の補充指導。 【使用教材】 プリント教材	夏休み終了後、 確認テストの実 施	夏休み終了後の 確認テストで全員 の正答率の10% アップ	・コロナ感染拡大のため 途中で中止となり、確 認テストはできなかった。	・サマースクール6日間 実施後、中止となった ために、確認テストがで きなかつた。	△ 評価 できず
新規	授業力 向上	教員	年3回	【取組みのねらい・目的】 ・管理職、教科指導専門員 による授業観察・指導 ・校内研授業(道徳) 年6回	授業研究実施	授業アンケート 肯定的評価 80%以上 授業研究 年6回	・肯定的評価 84.8% ・授業研究 年6回	・目標を達成することが できた。今後も「わかる 楽しい授業」を目指し、 工夫改善していく。	◎
新規	ICTの活用	全学年 全教科	週3回	教員・児童によるタブレット端末 の活用推進	週案 授業観察	週3回の活用	・週3回以上活用	・今後は、児童による活 用を推進していく。	◎
新規	家庭学習 の定着	全児童	毎日	【取組みのねらいと・目的】 家庭学習の定着を目指す。各 学年に応じた目標時間の設定・ 目標時間に応じた課題を提示。 自主学習にも取り組む。	宿題提出 状況調査	宿題提出率 90%以上	・宿題提出率 87.6%	宿題提出率は87.6%で 目標を達成することがで きなかつた。90%以上 を目指す。	△

重点的な取組事項－2		規律ある行動・健康な体づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
規律ある行動・健康な体づくり		<ul style="list-style-type: none"> ○前期後期に生活振り返りを行い、自己評価で、85%の児童が達成できる。 ○体力・運動能力調査結果が前年度の結果を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活振り返り(年2回)実施。自己評価90.8%で目標達成。 ・体力・運動能力調査結果 男子:1年・3年・4年・6年、 女子:4年・5年が合計得点で一昨年を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規律ある行動を身につけるために、全校で統一した指導を進めてきた。生活指導部を中心に指導を進めていく。 ・体力・運動能力調査結果は男子で4つの学年、女子は2つの学年が一昨年度を上回るにとどまった。今後は、強化領域を中心に体力向上を図る。 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力や運動能力の向上	○体力・運動能力調査結果が前年度を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> ○外遊びの奨励 ○縄跳び・持久走の取組 ○体育朝会(年7回) ○体力調査結果をもとに強化領域の決定 ○体育指導技術向上のための研修(年1回以上) ○運動や遊具での進級カードの活用(通年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力調査結果(R1年との比較) 【合計得点】 男子:1年・3年・4年・6年 が上回った。 女子:4年・5年 が上回った。 【種目別】 男子:投力、持久力、敏捷性が弱い。 女子:投力、瞬発力、持久力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度の記録と比較した。合計得点では、男子4つの学年、女子は2つの学年が上回ったが、学校全体として厳しい結果であった。来年度は投力・持久力、敏捷性、瞬発力を中心に指導を改善し体力向上に努める。 	△
基本的な生活習慣の定着と規範意識や自制心の育成	生活の振り返りを年2回実施し、85%以上の児童が目標を達成。	<ul style="list-style-type: none"> ○児童による挨拶活動 ○PTA等による挨拶活動 ○学級・学年・全校での指導の徹底 ○生活指導部の取組 ○生活振り返りカードの取組(年2回) ○保護者への啓発と協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活振り返り(年2回)実施。自己評価90.8%で目標達成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ふりかえりカードの自己評価結果90.8%で目標を達成した。児童による挨拶活動は、12月より実施している。今後も、子どもの実態をもとにふりかえりカードの評価項目の見直し等を進めながら児童の生活習慣の定着や規範意識や自制心を育てていく。 	◎

重点的な取組事項－3		豊かな心をはぐくむ			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・思いやりの心を育てる		「楽しく学校生活を送っている」 自己評価90%以上	・自己評価93.2%で目標達成。	「学校が楽しい」自己評価93.2%で当初の目標を達成することができた。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	○楽しく学校生活を送っている 「学校が楽しい」 90%以上	○ふれあい月間の取組(年3回) ○道徳授業の充実 「思いやり・親切」「人権尊重」での公開授業実施(年1回) ○全校朝会で活躍の賞賛	・学校が楽しい 自己評価93.2%で目標達成。	・道徳教育の充実やふれあい月間の取組など日常的な指導を大切に自己肯定感を高める。	◎
思いやりの心を育む	○異学年活動や児童会活動は楽しい 90%以上	○縦割り活動の充実 ・縦割り班遊び・縦割り班清掃 ○委員会・クラブ活動の充実	・異学年活動や児童会活動は楽しい 自己評価93.8%で目標達成。 異学年活動 94.1% 委員会・クラブ活動 93.4%	・クラブ活動や異学年活動は実施可能な活動を、委員会活動は日常活動を大切に指導してきた。思いやりの心や感謝の心を育む大切な機会である。児童の考えも取り入れながら、今後の活動を充実させ、思いやりの心を育んでいく。	◎
読書に親しみ、豊かな心を育む	○読書は楽しい 80%以上	○朝読書実施(週1回) ○読み聞かせの実施(各学級1回) ○読書月間実施(年2回) ○読書カードの活用	・読書は楽しい 自己評価87.9%で目標達成。	・図書館支援員や図書ボランティアによる読み聞かせや読書月間の取組を改善し、読書の質を高める工夫をしていく。「読書が楽しい」という児童90%を目指す。	◎

重点的な取組事項－４		幼・保・小・中の連携の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
幼・保・小・中の連携の充実		指導案検討会・研究授業、幼児・児童・生徒の情報交換会、交流研修等 年7回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携協議会7回実施。うち研究授業年3回実施。(指導案検討3回) ・近隣の保育園との交流研修は、コロナ感染防止の観点から実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月研究授業が実施できなかった。より有意義な研修となるよう次年度の計画を立案する。 ・交流活動や参観はできなかった。今後できる連携を推進していく。 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教員の交流研修	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣保育園との交流研修 ○保育参観(全教職員参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣の保育園との交流研修 ○公開保育参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流研修、保育参観は、コロナウイルス感染防止の観点から実施しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣保育園と交流研修、保育参観ができなかったが、情報交換を行った。 	○
児童、園児の交流	<ul style="list-style-type: none"> ○1・5年生が交流活動を実施 ○行事への招待 	<ul style="list-style-type: none"> ○園児の給食体験と交流活動 ○行事への招待 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と園児の交流活動は、近隣2園と計画していたが、コロナウイルス感染防止のため実施できなかった。 ・体育学習発表会の練習を保育園(1園)見学。展覧会に保育園(2園)を招待する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と園児の直接交流はできなかった。今後就学児を中心に情報交換を進める。 ・可能な範囲で招待をしてきた。来年度も大切な連携の機会としていく。 	○
小中連携研修	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決型授業展開の充実を目的とした研究会実施(年7回) 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体会(年2回) <ul style="list-style-type: none"> ・講演会・まとめ(各1回) ○研究授業 各分科会(年6回) <ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討(年3回) ・研究授業(年3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携協議会7回実施。全体会2回(講演会・分科会)指導案検討3回研究授業2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で研究授業が1回できなかった。より有意義な研修にするための来年度計画を立案していく。 	◎
中学校体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校体験活動(年1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の授業体験・見学の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大のため中止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大のため中止となってしまった。 	▲ 評価できず

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

・区学力調査通過率85%以上を目指してきた結果4月通過率は92.7%で目標を達成することができた。再調査は通過率1.2ポイント増の93.9%を達成することができた。国語・算数の基礎的基本的な学力の定着80%以上を目指した結果、国語81.3%、算数87.0%を達成した。80%に達成していない児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、90%以上達成に向けての努力を続ける。

重点的な取組事項－２ 規律ある行動・健康な体づくり

- ・体力テストの結果から、特に「投力」「持久力」「俊敏性」「瞬発力」の課題が明確になった。来年度は、体育朝会・体育的活動の内容を見直し、具体的な手立てをもって計画的に指導にあたる。健康な体づくりのために、保健・食育指導も大切である。養護教諭・栄養士と連携した指導をさらに充実していく。
- ・規律ある行動を目指した取組は成果をあげている。特に挨拶については、ほとんどの児童が自分から挨拶ができる。年間を通して教員や児童による挨拶活動を実施したことにより、相手の目を見て挨拶する児童が増えてきた。保護者会の場やHP・学校だより等を活用して、保護者・地域の方への情報発信の方法を工夫し、連携を強化していく。

重点的な取組事項－３ 豊かな心の育成

- ・「学校は楽しい」自己評価93.2%で設定目標を達成した。今後も、児童の自己肯定感・自尊感情を高めるために、自分の良さや友達の良さに気づく教育活動を重視していく。また、教員の人権感覚を磨き、児童に寄り添いながら豊かな心を育てる指導を進めていく。

重点的な取組事項－５ 幼・保・小・中の充実

- ・可能な限り幼・保・小・中の連携の充実に努めた。幼・保・小の連携については、近隣保育園との交流活動はできなかった。また、小中連携については、足立スタンダードに基づいた学習展開を基本として、学びの連続性を大切にして指導力の向上に努めてきた。今後さらに小中教員が協働して指導法等の統一を目指し、授業研究・協議を通して、授業力・指導力を互いに高めたいけるように努める。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

○学校、家庭、地域にはそれぞれの役目があります。学校は、子どもたちに学力や体力をはじめ、人格形成の基礎を身につけさせていく役目があります。また、子どもたちに基本的な生活習慣が身につくようにして、学習効果を高めていくことも役目です。この基本的な生活・学習の習慣を身につけることは学校だけでも家庭だけでもできません。互いがフィフティフィフティの同等な関係で、それぞれの役割を果たすことが重要です。基本的な生活・学習の習慣の土台は、家庭であり、家庭の協力が不可欠です。「躰」「健康管理」「家庭学習習慣」「社会規範(きまり)を守る」などは家庭の役目です。もう一つ家庭・地域・学校に共通の役割は、子どもたちに「忍耐強さ」「根気強さ」「自制心(心の強さ)」「意欲」「誠実さ」「好奇心(興味・やる気)」「社会性」「協調性(思いやり・協力)」「人とかかわる力」などの力を育てていくことです。家庭で基盤をつくり、学校で知識や知恵を身につけ、地域で実践していくような連携がとれることを願っています。学校の取り組みにご理解をいただき、より一層のご協力をお願いします。

○保護者・地域の皆様の学校に寄せる熱い想いを強く感じています。学校は、子どもあつての学校、地域あつての学校だと考えます。ですから、学校は、子どもや保護者、地域の声に耳を傾け、子ども、保護者、地域の願いや思いを受け止めて教育活動を推進し、「笑顔輝く保木間小学校」を実現していきたいと考えます。そのためにも、学校は、子どもたちの学校での学習面・生活面の状況を保護者の皆様や地域の皆様に積極的に発信することで共有し、協働して子どもたちに働きかける体制を確立していきたいと思ひます。

(3) その他(学校教育活動全般について)

○来年度の新入児童数は49名2学級が見込まれている。全校児童は305名、学級数も12学級となる予定である。特別支援教育については、特別支援教室を中心に学級との情報交換を密にし、個に応じた指導をさらに充実させ、児童一人一人のよさを引き出す指導を推進していく。また道徳教育や特別活動の充実を図り、豊かな心の育成にさらに力を入れていく。何よりも日常の授業を大切に、一時間の授業を通して、「人とかかわる力」「自分を知る力」「解決する力」等も育成していきたい。常にチャレンジ精神をもって教育活動を充実いくとともに、さらに家庭・地域との連携を強め、ともに子どもに働きかけていく体制を強化していくことが本校の使命である。